

「民意どこに」

強行採決 怒号飛ぶ

国民の理解は置き去りにされた。与党は十五日、衆院特別委員会で安全保障関連法案の質疑を打ち切り、採決を強行した。「これが民主主義か」。飛び交う怒号。安倍晋三首相は「国民の命を守る責任がある」と強調するが、違憲立法との懸念は拭えぬまま。「なぜ急ぐのか」「説明不足」。県内をはじめ列島各地で批判の声が上がり、国会周辺では夜になっても若者らが抗議を続けた。●面参照

安保法案 衆院委可決

「これが民主主義か」「採決をやめろ」。十五日の衆院平和安全法制特別委員会でも可決された安全保障関連法案。審議の最終盤では野党議員の怒号が飛び交い、法案の意義を強調する与党側の声をかき消した。浜田靖一委員長が、採決に抵抗する議員に一時囲まれるなど、第一委員室は騒然とした雰囲気包まれた。

午後零時十分ごろ、浜田委員長が質疑の終結を宣言した。野党議員が「強行採決反対」「アベ政治を許さない」と記された紙を掲げ、委員長席の周囲に一斉に詰めかけ抗議して、緊迫の度合いが一気に高まった。

「こんな法案は認められない」。賛成と反対に分かれて、進められた野党議員の討論でも怒号はやまなかつた。浜田委員長はそのまま採決の手続きに入

り、自民、公明両党の賛成で法案が可決した。安倍の表情を浮かべ拍手をする野党議員の脇で、野党議員は「反対」「コールを繰り返した。中谷元・防衛相は周囲から握手を求められても緊張した表情を崩さず一礼して第一委員室を退出。特別委に出席していた与党議員の一人は「法案が成立すれば切れ目のない対応が可能となる」と語った。採決に先立つ締めくくり質疑で答弁に立った安倍晋三首相は「国際情勢の変化に目をそらしてはならない」「政府には国民の命を守る責任がある」と、身ぶりを交えて法案の意義を強調した。

調。それでも野党側から「憲法違反だ」などのやじが飛び、「質問者以外は黙ってもらえますか」と声を荒げる場面も。委員会終了後、参院での審議を見据え「徹底的に抵抗する」と決意を新たにする野党議員も。参院議員の蓮舫民主党代表代行は国会内の集会で「引き続き廃案に向けた運動を展開していく」と訴えた。

同党の枝野幸男幹事長は記者会見で「戦いはむしろ今日がスタート」と強調。対案を提出した維新の党の松野頼久代表は東京駅前街頭演説し「強行採決のことを忘れないでほしい」と語った。



「反対するため頑張るぞー」と拳を突き上げる（左から）笠原一浩弁護士、山本正雄代表、南秀一委員長、龍田清成代表=15日、福井市大手3丁目付近で

共同で「反対」訴え

野党県内組織など 会見や街頭演説

政界組織である民主党県連、共産党県委員会、社民党県連と、政治団体の緑の党グリーンズジャパンは県庁で共同記者会見を開き、「安倍自民・公明内閣が今国会に提出している安保法制の強行採決に反対する」と共同アピールした。

後最悪の憲法破壊法案。日本を米国と一緒に戦争する国にする法案」と怒りを込めた。

付近で合同の街頭演説も行った。反対の姿勢を貫くことを誓い合った。

各団体の代表者らが顔をそろえた。民主党県連の山本正雄代表が「国民、国会軽視で到底許されない。立憲、民主主義を否定する」と切り出すと、共産党県委員会

社民党県連の龍田清成代表は安倍内閣が衆院で再可決するための「六十日ルール」に触れ、「参議院を小ばかにしている」と指摘。緑の党議員で前運営委員の笠原一浩弁護士は「憲法改正手続きによらない事実上のクーデター。近代民主主義の考え方を踏みにじる」と切り捨てた。

最初にマイクを握った山本代表は「日本が民主主義国家でなくなると心配して、この場に立った」と説明。「各党の考えが一致できる場所で共に頑張っていきたい」と訴え、「解釈で九条をくわすな」などと書かれたフラカードを持つ聴衆らとともに、「最後まで反対するため頑張るぞー」と拳を突き上げた。

議員会の南秀一委員長は一戦

四人は福井市大手三丁目

(西尾述志、玉田能成)

7/16 福井新聞